

## 新生児黄疸について

ほとんどの赤ちゃんは、生まれて数日たつと全身が黄色みをおびてきます。  
これを新生児黄疸といい、ある程度日数が経過すると自然に消えていきます。

黄疸は、血液中の「ビリルビン」という物質が多くなったことにより起こります。

ビリルビンとは、血液中の赤血球が分解されると出てくる物質です。

お母様のお腹の中にいる赤ちゃんは、酸素をお母様の血液からもらうために  
胎児用の赤血球を持っています。

生まれると自分で呼吸をして酸素を得るための大人用の赤血球に変わっていきます。

このときに分解された赤血球からビリルビンが出てきます。

ビリルビンは、肝臓で処理されて排泄として排出されます。

しかし、赤ちゃんの肝臓は未熟なため処理できないビリルビンが溜り、黄疸がでます。

分解される胎児用の血液が少なくなると黄疸は自然に消失していきます。

ビリルビンが多量に脳へ移行すると核黄疸という病気になります。

核黄疸がひどくなると、ビリルビンが脳の細胞に障害をおこす可能性も出てきます。

ある一定以上黄疸が出てきたら、血液中のビリルビンを少なくする治療を行います。

血液中のビリルビンの値は、予防のためかなり低い値から治療を行います。

黄疸の治療には、体に光線をあててビリルビンを処理する光線療法が最初に行われます。

本日よりこの光線療法を開始します。

光線療法は、通常 24 時間赤ちゃんに光を当てて黄疸が軽減したかを検査します。

24 時間ごとに判断し、既定の値まで黄疸が軽減していれば光線治療は終了です。

軽減しても光線治療が終了できる値まで減少していない場合などは、

さらに 24 時間光線療法を行います。

光線療法終了後は、24 時間後に再度ビリルビンの値が異常値まで上昇していないことが  
確認できたら治療は終了です。



Belier Hill